

4月1日から有料化開始 レジ袋の削減を目指して

2月10日、大野・勝山地区広域行政事務組合において、「マイバッグ等持参推進及びレジ袋削減に関する合同協定締結式」が執り行われました。

今年の4月1日から始まる、レジ袋無料配布中止に関して、勝山市、大野市、永平寺町がそれぞれの市内の事業者と協定を結びました。勝山では、趣旨に賛同した6事業者と協定を締結しました。詳しくは、広報かつやま3月号の折り込みチラシをご覧ください。



協定を締結した2市1町の首長と事業者の皆さんなど



山岸市長から委嘱書を受ける三屋さん

かつやま“健康スポーツ”大使を委嘱 三屋裕子さんに勝山の応援を

勝山市出身の元五輪バレーボール選手の三屋裕子さんが、勝山左義長まつりに来勝しました。その際、これからスポーツを通じて勝山の応援とPRをしていただくために、三屋さんを「かつやま“健康スポーツ”大使」に委嘱しました。

三屋さんは、「市民の皆さんの健康づくりのお手伝いをしたい。」と、にこやかに抱負を語りました。

来館300万人を突破 温泉センター「水芭蕉」

2月14日、温泉センター「水芭蕉」の来館者が300万人を突破しました。年間約16万人が訪れる同センターは、4年前から指定管理者による運営が行われており、市民はもちろん、県内外から訪れる観光客にも利用され、好評を得ています。



300万人目となった元岡さんご家族

300万人目となったのは、兵庫県宝塚市から来られた元岡智彦さん(36)、智恵子さん(35)、菜々美ちゃん(3)のご家族。初めて利用したという元岡さんは、「300万人目ということで、びっくりしました。」と驚いていました。



思い思いの恐竜を作る参加者

雪像コンテストで力作多数 恐竜がぞくぞく出現!

2月13日、14日の両日、かつやま恐竜の森を会場に、恐竜雪像コンテストが開催されました。(NPO法人恐竜のまち勝山応援隊など主催)

市内外から計13チームが参加し、ファミリーの部では福井市の尾崎誠彦さん(40)、みのりさん(38)、暉くん(8)の「HIKARUくんファミリーの親子ティラノ&恐竜くん達」が最優秀賞を獲得。暉くんは「とっても冷たかったです。」と話していました。



▲講演する南保教授「勝山の素晴らしい地域資源を活かした観光産業へ力を。」



▲熱心に語るパネラーの皆さん



地域経済フォーラム開催 勝山の経済を活性化させるには?

福井県立大学主催の「地域経済研究フォーラム in 勝山」が2月20日に福祉健康センター「すこやか」で開催され、「勝山の魅力を活かした経済活性化とまちづくりの実現」をテーマに、県立大学地域経済研究所の南保 勝教授が講演を行いました。

南保教授は、勝山の経済状況について資料を用いて分かりやすく説明し、市への観光客の入込数が多いことに注目。恐竜、平泉寺、ゆめおーれ勝山、ジオパークなどの優良な素材が豊富にあることから、「観光産業へ、行政、住民、企業、団体が結集して力を注ぐべき。」と提案しました。

その後、パネルディスカッションが行われ、勝山商工会議所の荒井会頭、ゆめおーれ勝山の山本館長、市民団体「らぶ勝」の義野さんがパネラーとして参加し、勝山の魅力を活かしたまちづくりについて対談しました。それぞれの活動報告に、参加した市民の皆さんも熱心に耳を傾けていました。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ロゴマークデザイン決定!

勝山市が「日本ジオパーク」に認定されたことを記念し、ロゴマークデザインを公募したところ、県内外から、533点の応募がありました。

2月18日に審査会が行われ、厳正な審査の結果、最優秀賞に横山雄樹さん(=24=福岡市在住)の作品が選ばれました。

一見、空と雲と太陽のように見えますが、図と地の関係を反転すると、雲は口と歯に、太陽は目に変わり、左側を向いた恐竜の横顔となります。



恐竜渓谷
ふくい勝山ジオパーク

今後、ジオパークのPRに活用していきます。



左から、吉田県農林水産部長、山崎アボットジャパン(株)勝山営業所長、山岸市長

「アボット勝山の森」森林協定を締結 企業の森で森林整備

市内製菓企業アボットジャパン(株)と勝山市、福井県が協力して森林整備活動を行なう協定の締結式が、2月18日にゆめおーれ勝山で開かれました。

勝山市はスキージャム勝山へ向かう有料道路沿いの市有地を無償で貸し、「アボット勝山の森」として同社が5年間で約1,800本の広葉樹の苗木を植樹していく予定です。市では今後この場所を、市民の憩いの場所として整備していくことを検討しています。